免許について

【薬剤師】

学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づく大学において、薬学の正規の課程を修めて卒業した者に受験資格があります。従って、本学の卒業生は全員受験資格が得られます。

◆試験期日

：2 月下旬～3 月上旬の 2 日間

◆出題領域

：「物理・化学・生物」、「衛生」、「薬理」、「薬剤」、「病態・薬物治療」、「法規・制度・倫理」、「実務」の 7 領域

◆試験問題数

：必須問題が 90 問、一般問題（薬学理論問題）が 105 問、一般問題（薬学実践問題）が 150 問、合計 345 問となります。なお、薬学実践問題は、「実務」20 問に加え、「実務」とそれ以外の科目とを関連させた複合問題 130 問となります。

科目	問題区分				出題数計
	必須問題	一般問題			
			薬学理論問題	薬学実践問題	
物理・化学・生物	15 問	45 問	30 問	15 問（複合問題）	60 問
衛生	10 問	30 問	20 問	10 問（複合問題）	40 問
薬理	15 問	25 問	15 問	10 問（複合問題）	40 問
薬剤	15 問	25 問	15 問	10 問（複合問題）	40 問
病態・薬物治療	15 問	25 問	15 問	10 問（複合問題）	40 問
法規・制度・倫理	10 問	20 問	10 問	10 問（複合問題）	30 問
実務	10 問	85 問	―	20 問＋65 問（複合問題）	95 問
出題数計	90 問	255 問	105 問	150 問	345 問

◆合格基準

：以下のすべてを満たすことを合格基準とします。

①全問題への配点の 65％を基本とし、問題の難易を補正して得た実際の総得点以上であること。

②一般問題について、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の 35％以上であること。

③必須問題について、全問題への配点の 70％以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の 50％以上であること。

◆合格発表日

：3 月下旬

（厚生労働省並びに地方厚生局及び地方厚生支局にその受験地、受験番号を掲示して発表するほか、合格者に対して合格証書を郵送する）

◆受験手続

(6 年生)

出願書類は学部で配布し、取りまとめの上、一括して受験地を管轄する地方厚生局に提出します。なお、出願に関する日程は以下のとおりです。

9 月上旬　試験期日提示
10 月下旬　出願日程提示
11 月下旬　出願書類配布
12 月上旬　出願書類締切
2 月下旬　受験票配布

(卒業生)

出願書類は 6 年生の場合と同様、取りまとめの上、一括して受験地を管轄する地方厚生局に提出します。受験を希望する者は、薬学部教務担当まで下記事項を明記したものを 11 月中旬までに手紙で申し込めば出願書類を送付します。

①氏名　②出願書類送付先の住所と電話番号　③学籍番号　④140 円分の切手

【臨床検査技師】※平成 25 年度までの入学者に適用

患者様に直接手を触れる医行為が出来るのは、医師、歯科医師および看護師だけで薬剤師には許されていませんが、臨床検査技師は検査のための採血と心電図などの生理機能検査が法律の範囲内で実施できるようになります。臨床検査技師の国家試験の受験資格を得るためには、薬学部の必修科目以外に以下の講義選択科目と実習の単位取得が必要です。

◆実施期日

: 2 月中旬～下旬（薬剤師国家試験の 1～2 週間程度前）

◆講義科目

: 以下の選択科目を必ず履修し、単位を修得すること。

放射薬品学（3 年次春学期・1 単位：選択科目）
病態検査学Ⅱ（3 年次秋学期・1 単位：選択科目）
臨床生理学（3 年次秋学期・1 単位：選択科目）
医用工学概論（4 年次春学期・1 単位：選択科目）

◆実習科目

: 以下の実習を必ず履修し、単位を修得すること。

・放射薬品学実習（3 年次秋学期・0.5 単位：選択科目）
・臨床検査実習（4 年次春学期・4.5 単位：自由科目）
　臨床検査実習は、①臨床検査総論実習、②医用工学概論実習、③臨床生理学実習からなり、臨床検査技師国家試験の受験資格取得希望者は一括履修すること。なお、③臨床生理学実習は病院検査部実習期間内に指定された病院で実施します。
・病院検査部実習（4 年次夏期休暇中の 3 週間）
　病院検査部実習は単位に認められていませんが、指定された病院の検査部で実施します。